

## 2018 年度日本農業史学会・学会賞候補業績募集および研究報告会のお知らせ

会員各位

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。日本農業史学会より標記の件について、以下の通りお知らせします。

### (I) 2018 年度日本農業史学会賞（学会賞・奨励賞）候補業績の募集

以下の通り、2018 年度日本農業史学会賞（学会賞・奨励賞）候補業績を募集いたします。

[学会賞] (1) 対象者：優れた研究業績を公刊した 40 歳以下の会員（研究業績刊行時点）

(2) 対象業績：過去 2 年間（2015 年 1 月～2017 年 12 月）に公刊された著書およびそれに準ずるもの

[奨励賞] (1) 対象者：将来の発展が期待される研究業績を公刊した 40 歳以下の会員（研究業績刊行時点）

(2) 対象論文：過去 2 年間（2015 年 1 月～2017 年 12 月）に公刊された論文およびそれに準ずるもの。（なお直近の『農業史研究』（第 51 号）に掲載された投稿論文はありませんでした。）

[応募方法]：本会会員の推薦によります（著者自ら推薦することを妨げない）。推薦に当たっては、所定の推薦書を付してください。一度対象となった業績の再応募は認められませんが、同一人物でも別の業績であれば差し支えありません。

推薦書および対象となる業績（著書の場合 1 部、論文の場合 5 部（コピーでも可））を事務局までご送付下さい。締切りは、2018 年 1 月末日といたします。

「推薦書書式」は、学会HP（学会規約→日本農業史学会賞表彰規程細則→「別添書式（学会賞推薦書）」または「別添書式（奨励賞推薦書）」）からダウンロードしてください。あるいは、事務局までお申し出て下されば、送付いたします。

<http://agrarian-history.sakura.ne.jp/institution.html>

なお、学会賞と奨励賞はそれぞれ別の書式を使用することになります。ご注意ください。

不明の点がありましたら、下記の事務局までお問い合わせください。

### (II) 2018 年度日本農業史学会研究報告会に関するお知らせ

先にお知らせしましたように 2018 年度の日本農業史学会大会を、京都大学農学部において 2018 年 3 月 29 日(木)に開催します。

記

日時：3 月 29 日(木) 午前：個別報告、午後：大会シンポジウム

会場：京都大学農学部総合館（W314・W322 教室）

〒606-8502 京都市左京区北白川追分町

<http://www.kais.kyoto-u.ac.jp/japanese/access/>

## ①個別報告の募集について

個別報告をご希望の方は、下記要領にて電子メール(ないし郵便)で学会事務局までお申し込みください。

1) 必要書類：申込用紙（氏名、所属、報告タイトル、連絡先、メールアドレス）

および**報告要旨（1,000字以内）**。書式は任意です。

2) 申込期間：2017年12月7日～**2018年1月19日(金)**（すでに受け付けています）

3) 申込先：学会事務局まで。

メールの場合：office@agrarian-history.sakura.ne.jp

郵送の場合：〒606-8502

京都大学農学研究科生物資源経済学専攻比較農史学分野気付

日本農業史学会事務局まで

なお、報告時間は最長で50分（報告40分、質疑応答10分）を予定しています。（ただし報告者数が多い場合には短縮されることがあります。あらかじめご了承ください）。

会員各位の積極的な応募を期待しております。

## ②H29年度農業史学会シンポジウム

### ローカルヒストリー 食と農の地域史 —消費と生産をめぐる関係史の試み—

オーガナイザー：湯澤規子(筑波大学)

報告者：

(1) 藤本 武（富山大学）

「エチオピアにおける食と農の展開（仮）」

(2) 都留俊太郎（京都大学大学院）

「植民地期台湾における甘藷栽培と農家の食（仮）」

(3) 平野哲也（常磐大学）

「江戸時代北関東における主穀の生産・流通・消費（仮）」

(4) コメンテーター：大豆生田稔（東洋大学）

### 趣旨

これまでの農業史研究は主に「生産」、つまり「農」の営みに焦点を当ててきたが、「消費」、つまり「食」の営みは等閑視される傾向にあった。他分野を含めると「食」については個別の食べものや時代についての文化史的アプローチによる研究蓄積があるものの、食と農を地域の社会や経済との関わりを視野に入れ、歴史的に論じたものは多くない。

ただし、米穀に関しては、農業史研究において生産、消費それぞれを視野にいれた研究が蓄積されてきた。しかし、より広く、野菜、果物、肉・魚類、調味料などを含めた食べものをめぐる食と農の営みの両者は常に表裏関係にあり、これらを含めると食と農の関係

史にはいまだ多くの課題と可能性が残されている。

近年、歴史学の分野では『お米と食の近代史』（大豆生田、2007、吉川弘文館）、『生産・流通・消費の近世史』（渡辺、2016、勉誠出版）、『食と農のアフリカ史』（石川、2016年、昭和堂）などが刊行され、消費や食を射程に入れた研究によって新たな歴史像が構築されつつある。通時的にみて、人口増加や生産の技術革新、都市の拡大による大衆消費社会の到来および浸透を背景として、近世、近代、現代の各時代ではたえず食と農の関係に構造的な大転換が生じてきた。これらを解明することは農業史のみならず、近年の歴史学、社会学、経済学における課題であり、農業史が隣接諸分野と議論を共有する重要なテーマの1つとなり得る。

そこで本シンポジウムでは、「食」と「農」の関係史を「地域」の視点から検討することを目的とする。台湾、日本、エチオピアでのフィールドワークから地域を描く研究者を招き、地域や時代を比較する視点も含みつつ、農業史研究に「食」の視点を加える意義と可能性を議論したい。（湯澤規子：筑波大学）

日本農業史学会事務局

office@agrarian-history.sakura.ne.jp

郵便振替口座 00180-9-20117

(連絡先) 〒606-8502 :

京都大学農学研究科生物資源経済学専攻

比較農史学分野気付

Tel : 075-753-6184(足立)、Fax 075-753-6191